

## 令和3年度 入学式式辞

本日、我が公立千歳科学技術大学に、299名の新入生を迎えられたことを大変喜ばしく思っております。新入生の皆様、そして、関係者の皆さま、ご入学おめでとうございます。本学教職員を代表しまして、ご入学を心からお祝い申し上げます。

さらに本日は年度初めの大変お忙しい中、千歳市長 山口幸太郎様、千歳市議会議長 佐々木雅宏様、本学前理事長・学長である川瀬正明先生はじめ、ご関係の皆様にご臨席いただきました。あつく感謝申し上げます。

本来であれば、より多くのご来賓やご家族、関係者の方々のご臨席のもと入学式を挙行し、皆様の入学をお祝いするところですが、新型コロナウイルス感染症の国内外における感染拡大が、いまだに終息していない現段階では、関係者すべての健康を最優先に考え、列席者を抑えた入学式となりました。この度の措置についてご理解頂ければ幸いです。

本学は、2019年4月に公立大学法人となった、まだ3年目の公立大学です。前身の私立大学時代を含めても、今年で24年目となる新しい大学です。本学は、理工学分野を専門とする単科大学となります。皆さんは、ここで、応用化学、生物学、電子工学、光科学、情報科学、システム工学などを学びます。

まず、本学の理念についてお話をさせてください。

1つ目は、理工学分野をはじめとする幅広い教育と研究を通して、高い知性とすぐれた人格を有する世に有為なる人材を育成するとともに、学術・産業の振興に貢献すること。

2つ目は、知の拠点として大学が有する人材と知恵を社会に提供し、地域との共生を通して、社会とともに発展する大学を目指すことです。

この理念からわかるように、皆さんには、理工学における、幅広い分野の学問を学び、優れた研究成果をあげ、その内容を、社会に還元し、より豊かな世界の実現に向けて大きく貢献してほしいという願いが含まれています。また、地域との共生とは、これから生活する千歳という場所を大切に思い、地域の発展にも貢献してほしいという願いも含まれています。

皆さんは、大学で学ぶこと、学べることは何だと思えますか。

大学の講義は、おそらく最初は、高校の授業に近く、同じに感じるかもしれません。例えば、その講義から、皆さんは、この内容がどこに役に立つのか、何に利用できるのか、不思議に感じることもあるかもしれません。

今、時々新聞・テレビなどで、話題となっている人工知能は、情報科学の研究領域です。でも、1956年に、人工知能が世界で初めて提案されたときには、情報科学という学問分野はありませんでした。数学、論理学の分野から生まれています。その後、1980年代に再び話題になったときには、計算機科学や心理学、生物学の各分野の知識を利用し、融合して、基礎理論の体系化に大きく進展がありました。現在、人工知能は、さまざまな分野で応用、活用されるに至っています。

そこでは、最初に数学があり、生物学、情報科学などの分野を取り込んで、新しいイノベ

ーションが生まれています。大学で学んだ知識。大学院で取り組んだ研究テーマ。研究者となつてからの、様々な人との出会い。そのような出会いとつながりが、新しい何かを生むものと感じます。

皆さんも、その時々で、何につながるか、何の意味なのか、不明に感じる時があるかもしれません。あとになって、わかることが多いかもしれません。でも、皆さんには、多少でも興味があるなら、積極的にかかわってみてください。今の枠組みにとらわれずに、常に新しいことに興味を持ち、何事にも主体的に取り組んでいただきたいと希望します。それらが、後に、大きな実りを与えてくれるものと考えます。

今、皆さんがこれから進む、情報科学、電子情報通信工学、マテリアル・バイオサイエンスの世界は、まだこれからの領域です。それらを融合して新しい領域を創生しようとしている、本学のポリシーは、新しく、始まったばかりです。皆さんとともに、大きく飛躍できればと思っています。

多くを学び、多くの友が得られるように、そして大きな夢に向かって、のびのびと実り多い学生生活を送られることを祈っております。

本日は本当におめでとうございます。

令和3年4月2日  
公立千歳科学技術大学長  
宮永喜一